

取扱説明書

日本消防検定協会 検定合格品

赤外線式スポット型感知器

FDCJ002-D-X



注意



この製品は消防法に定められた「自動火災報知設備」の構成機器です。他の用途には使用しないでください。

注意



ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みください。また、本文中にてご注意の事項を注意深く読み、よく理解してご使用ください。

- ・この取扱説明書は、いつでも使用される所に保管してください。
- ・この商品は定期的な保守点検を必ず行ってください。

NOHMI

仕様

種別	赤外線式スポット型感知器
国検型式番号	感第 16~26号
定格電圧・電流	DC24V, 100mA
監視時消費電流	約 67 μ A
使用温度範囲	-10℃~+50℃
接続可能機器	当社 ・ N-13以降のP型1級受信機 ・ B-10以降のP型2級受信機 (B-11, 15を除く) ・ R-12, 1100シリーズ以降のR型用中継器
最大接続個数	20個/回線 (F型中継器 13個/アドレス)
主材	[本体・ベース]: 難燃性樹脂
取付ベース	FZB018-4 (露出型), FZBJ014-R-4 (露出型)

- ・この製品の外觀および仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

商品の概要

・火災検出原理

赤外線式スポット型感知器 (以下、炎感知器とする) FDCJ002-D-X型は、物が燃焼する時に発する炎からの放射エネルギーを検知することにより、火災の発生を感知するものです。(CO₂共鳴式)

・主な用途

本炎感知器は、次のような場所に適しています。

- (1) デパート・スーパーの売り場やトイレなど放火の危険性のある場所。
- (2) 映画館、劇場、アトリウム、格納庫などの高天井を有する建物。
- (3) 工場など換気流、外気の流入のある建物で、他の種別の感知器では有効に火災感知できないおそれのある場所。

設置上の注意

- (1) 太陽の直射光または、反射光が直接受光部に入らないような場所に配置する必要があります。
- (2) 感知器受光部の直近の視野を、発熱体 (ランプ光源等) が移動するような環境に設置すると非火災報がでる可能性があります。
- (3) 実際に取り付ける場所の見通しを確認し、感知器の視野角内に障害物が無いか確認してください。
- (4) 壁面に設置する場合は確認灯を上にしてください。



- (5) 感知器の前に透明の亚克力板やガラスがある場所に設置しないでください。失報の原因となります。
- (6) 非防水型のため半屋外や屋外に設置しないでください。
- (7) 電磁波がある場所に設置しないでください。
- (8) 振動がある場所に設置しないでください。

注意



感知器の清掃などの点検作業を安全に行うために、必ず足場を確保してください。

注意



分解しないでください。感電などの事故が起こる可能性があります。

注意



この製品の取付け、調整・メンテナンスは法によって定められた有資格者が必ず行ってください。なお、大切な防災システムのメンテナンスは多数の有資格者を有する当社CS部門または当社機器代理店・特約店にご用命ください。

感知器の接続方法

- (1) 感知器ベースは左表の取付ベースを使用してください。
- (2) 本感知器は、感知器の作動に伴い、受信機に信号を送ると共に、室外表示灯を接続することにより、室外で感知器の作動を確認することができます。
- (3) 本感知器と受信機間の外線接続および他の室外表示灯との外線接続は下図2を参照してください。感知器のXL1 (-)、XL2 (+) 端子は有極性のため、室外表示灯回路付感知器を接続する場合は極性を合わせてください。
- (4) 室外表示灯はFLLO61型シリーズ (赤色発光ダイオード: 最大定格50mA、逆耐電圧3V) を使用ください。

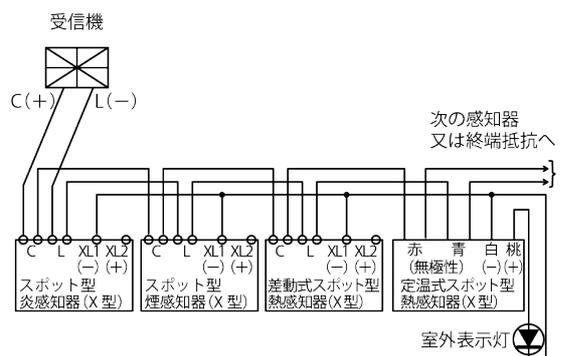


図2 結線図 [室外表示灯を使用する場合]

監視距離と視野角

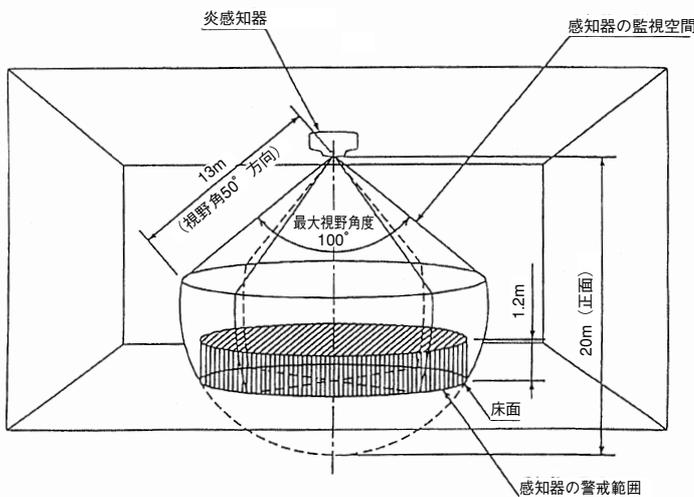
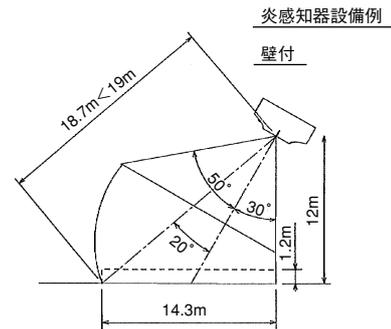
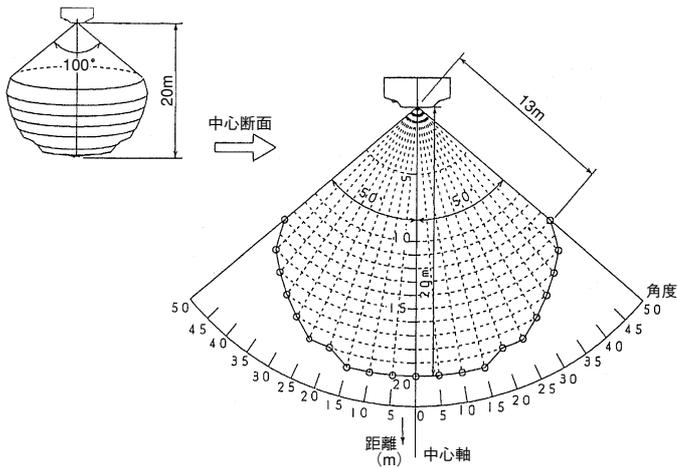
本炎感知器は、炎を検知する受光部の特性により、視野角ごとに監視距離が異なり、また最大視野角は感知器中心軸の両側合わせて100度の円錐状の視野を有します。従って監視範囲は図1に示す通り、円錐の先端にはほぼ半球を加えた様な形となります。本炎感知器の公称監視距離を表1に示します。設置される時は下表1に従って床面から1.2mまでの空間の各部分から感知器までの距離が公称監視距離の範囲内にあり、また視野角度が感知器の中心軸から50度以内に入るように設置してください。

注意	視野角は必ず確認し、未監視範囲を生じないように注意してください。
!	不適切な設置は失報の原因となります。

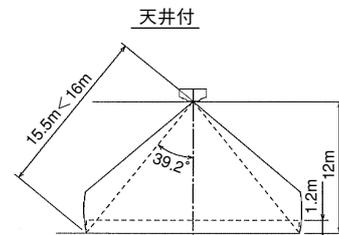
表1 監視距離

感知器中心軸からの視野角(度)	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50
公称監視距離(m)	20	20	20	20	19	19	18	17	16	15	13

図1 FDCJ002-D-X型の監視範囲



FDCJ002-D-X型の立体監視範囲



取扱上の注意

清掃するときは必ず感知器を取り外し、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚損がひどい場合は、中性洗剤を浸して十分に絞った布で汚れを拭き取ってください。

清掃後、柔らかい乾いた布で中性洗剤や水分を十分に拭き取ってください。

注意	
!	取り付けた状態で清掃すると非火災報の原因となります。

注意	ベンジン、シンナーなどの溶剤、研磨剤を含むクリーナーなどは使わないでください。
!	本体の変色、変形などの原因となります。